料金別納
郵便

6月一般質問の動画はこちら

note

上田市議会議員　上田大好き　斉藤達也

達参会ニュース

たっさんかい

２０２４年（令和６年）第２８号

発行人　達参会（斉藤達也後援会）上田市中央2-20-12　討議資料
TEL&FAX　0268-75-0175　E-mail：t.saito.koenkai@gmail.com

「自分でつくったまちに住む」~総務委員会の視察を終えて~

　大阪府大東市のmorineki（もりねき）は建設費に公的な補助金を投入せず、金融機関から資金調達を行い、市営住宅跡地を再生した公民連携のプロジェクトです。実際に訪れてみると、気持ちの良い芝生広場や北欧レストランの奥に、ちょっとオシャレで機能的な低層の木造住宅が並ぶ、魅力的な景色が広がっていました。

　開発理念は「自分でつくったまちに住む」であり、過去の度重なる水害等により市民は市政に、市政は国に依存していた「依存体質」を打破するために、公民連携に出会ったとのこと。今では地価も125%に上昇し、市民サービスも向上、地域経済も循環しています。上田市でも「自分たちのまちの未来は自分たちで創る」気概で、これからも提案していきます。

６月一般質問　水道広域化は上田市にとって有益か

問　4月に設立された上田長野地域水道事業広域化協議会の目的は「水道事業の統合」である。これは今まで市が説明してきた「一つの選択肢としての広域化」とは異なり、実質的に広域化する前提で協議が進むものと考えられるが、市長の見解はどうか。

答（市長）現時点では広域化の事業統合の期限は定めておらず、また協議会規約には脱会することができるとの規定もあるため、広域化ありきではない。上田市として、広域化を一つの選択肢としてしっかり判断していく。

再問　広域化以外にどのような選択肢があるのか。

答（市長）今の現状でそのまま行くということ。

問　条件なしでの広域化または市単独という二者択一ではなく、その間にも選択肢は数多く存在する。広域化するにしても不利にならないよう条件を出していくべき。上下水道一体化検討の提言や市内施設の優先的整備のイニシアチブはどのようにとっていくのか。

答（市長）下水道事業との連携や遅れている施設整備に対する優先的な整備について、協議会はもとより部局長クラスで構成される幹事会等においても市としての主張を十分に伝えていく。

問　染屋浄水場から県営水道区域である塩田地域等に給水するための連絡管の整備はいつになるのか。

答（上下水道）整備延長約３㎞、工事費用約６億円、工事期間約５年間を見込む。十分な量の水を送るためには、真田地域の滝の入水源を開発し、水運用を変更する必要もある。これらの整備は、広域化の補助事業期間である令和16年度までの実施を検討している。

　また、並行して染屋浄水場の老朽化した施設の更新、耐震補強にも取り組む必要があり、工事期間は20年間程度と見込まれている。塩田方面への全量供給については、一連の整備の完了後になる見込み。

問　広域化した場合、水利権はどうなるのか。

答（上下水道）広域の企業団に引き継ぐことを想定。